

みんなで勝ち取った優勝

今月の表紙は、区内の少年野球チーム「伏古わんぱくボーイズ」の皆さんです。八月中旬に埼玉県所沢市で開かれた少年野球の大会で、北海道勢初の優勝という快挙を成し遂げました。

伏古わんぱくボーイズに所属するのは、主に、札幌小学校に通う四年生から六年生までの児童です。総勢約三十人の選手が、札幌小学校のグラウンドで、練習していま

す。創部以来二十一年目になる今年は、チームの歯車がちりかみ合い、さまざまな大会で連戦・連



投手練習を見守るのは、監督の関敬さん(55)。今年チームについて、「複数の手がいて、ローテーションを組むのが強み」と話して

勝。九月までの時点で、九十試合以上もの公式戦を戦い、その勝率は、八割を超えているという快進撃でした。そして、今年の活躍の集大成といえるのが、八月十八日から、

プロ野球西武ライオンズの本拠地、西武ドームで開かれた「日動火災カップ・第二十五回くりくり少年野球大会」での優勝です。主に、関東地方から四十チームが参加して開かれたこの大会。北海道から出場できるのは一チームなので、北海道予選を、五試合勝ち抜いての出場です。

一回戦で、いきなり優勝候補と目される強豪チームとの対戦となりましたが、この試合に完封勝ち。これで、チームはすっかり波に乗り、続く二試合は、打線が爆発して、コールドゲームで勝利するなど、五連勝で一気に頂点に立ちました。



週末や放課後に、週四日間くらい練習し、試合も、土曜、日曜に三、四試合はこなします。練習中は、時折、監督やコーチから、厳しい声も飛びますが、「西武ドームで試合をする」という大きな目標に向かって、チーム一丸となつて頑張ってきました。

主将の工藤研太君(二)は、「野球が楽しいので、大変だと思つたことはありません。一生懸命やつて、優勝できたことは本当にうれしい」と話してくれました。



完成してすぐの札幌監獄本署(明治14年)

の監獄署を札幌監獄本署として、既決囚を収容しました。それまでの監獄は、札

ひがすとりー

刑務所の創設

開拓使は、民心の安定と地方の平穏が開拓に重要と考え、一八七〇(明治三年)、重罪人を労役に就かせる徒刑制度を定め各地に徒刑場を設けました。市内には、現在の大通西一付近にあった開拓使倉庫を改修し、札幌牢を設けます。これが札幌刑務所の始まりです。

しかし、ここはすぐに手狭になり翌年には、大通西二付近に獄舎を新築します。さらに一八七五(明治八年)には、現在の北六東二付近に雨籠通囚獄が設置されます。この建物が、札幌における近代的獄舎の始まりといわれています。

その後、一八七九(明治十二年)になって、現在の札幌刑務所がある場所に新たな監獄署の建設が決まります。翌年十二月に新監獄署

第31回

札幌刑務所(一)

幌監獄支署として未決囚を収容するようになりませんが、その後、支署は本署構内に移設され、廃止されました。

開拓に携わる

北海道の開拓は、移住民開拓、屯田兵開拓、監獄開拓の三つに大別できるともいわれています。中でも囚人による監獄開拓は、後に入植する移民にとつての利便を高め、開拓を進める働きをしたといわれています。

北海道に送られてきた囚人は伐採や道路を開く苦しい労働に従事することも多く、苗穂村周辺でも苗穂排水、三角排水といった大排水工事などに囚人の姿が見られました。当時の囚人は、作業時に赤い服を着ていたため、よく「赤ん坊」と呼ばれていたようです。丘と篠路を流れる「赤坊川」は、囚人が掘ったことから、この名が付いたといわれています。

札幌監獄では、囚人の役務として農業開拓も行われ、広い農場が造られました。ここではコウゾを植えて製紙に従事し、紙も産出していました。